



当社の事業概要と 成長戦略について



2010年2月

代表取締役

相岡 雅俊

目次

会社概要

事業内容と成長戦略

主要プロジェクトのご紹介

環境・CSR、新エネルギー等への取り組み

業績の見通し

見通しに関する注意事項

当プレゼンテーションに含まれる将来の業績などの記述は、現時点における情報に基づき判断されたものです。こうした記述は経営環境の変化等により変動する可能性があり、当社としてその確実性を保証するものではありません。

会社概要

沿革

INPEX

国際石油開発(株)

1966(昭和41)年設立

- 海外における石油・天然ガス開発のトップランナー
- インドネシア共和国の石油資源の開発目的に誕生し、以来、インドネシア、豪州をコアエリアとして、カスピ海沿岸、中東、南米などへ活動地域を展開
- 2004(平成16)年5月、石油公団が保有するジャパン石油開発(株)(JODCO)の全株式を株式交換により取得し、完全子会社化

◆ TEISEKI

帝国石油(株)

1941(昭和16)年設立

- 日本国内における石油・天然ガス開発のパイオニア
- 国内最大級の南長岡ガス田を始めとする 国内油・ガス田の開発・生産のほか、中南米、北アフリカの各地域で開発を推進
- 関東甲信越に広がる総延長約1,400kmの天然ガスパイプラインネットワークを構築

INPEX ◆ TEISEKI

【統合の第1段階】

2006(平成18)年4月3日： 共同持株会社 国際石油開発帝石ホールディングス(株)設立

国際石油開発帝石株式会社

INPEX CORPORATION

【統合の完了】

2008(平成20)年10月1日：

ホールディングスと子会社2社の合併により一層効率的・機動的な経営体制へ

会社プロフィール

概要(2009年9月末時点)

- 資本金: 300億円
- 従業員数: 1,860名
- 発行済み株式数: 2,358,409株
- 決算期: 3月
- 関係会社数: 連結子会社55社、持分法適用関連会社12社

- 世界26カ国にて事業展開し、日本企業最大の生産量・埋蔵量規模を有する国際的な石油・天然ガス開発会社

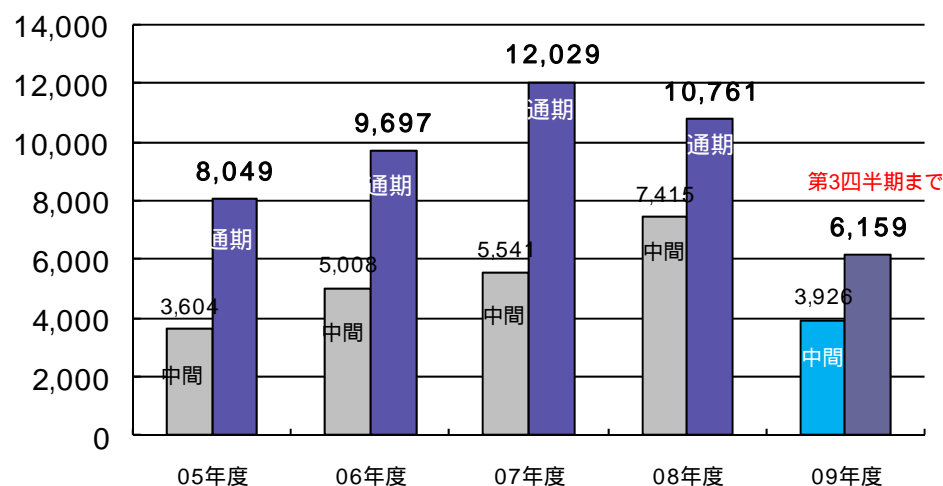
経営理念

私たちは、国内外における石油・天然ガスの開発を主体とし、エネルギーの安定的かつ効率的な供給を実現することを通じて、豊かな社会づくりに貢献する総合エネルギー企業を目指します。

業績の推移

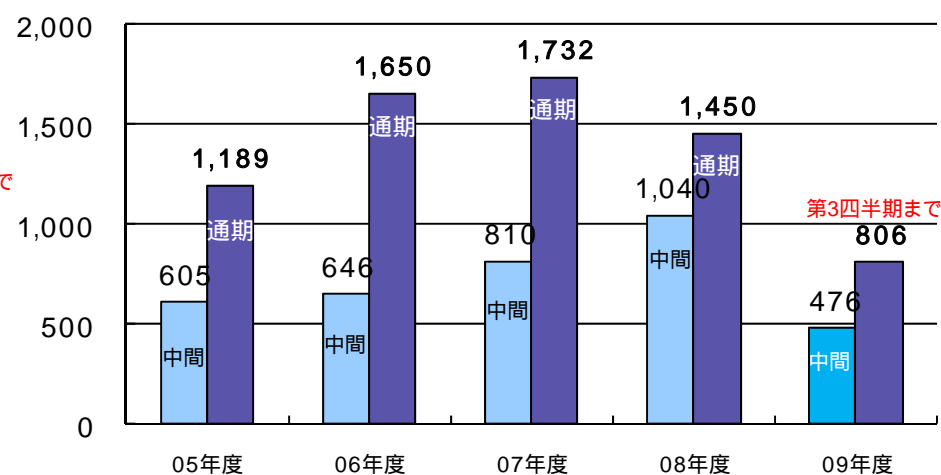
売上高(連結)

(億円)



純利益(連結)

(億円)

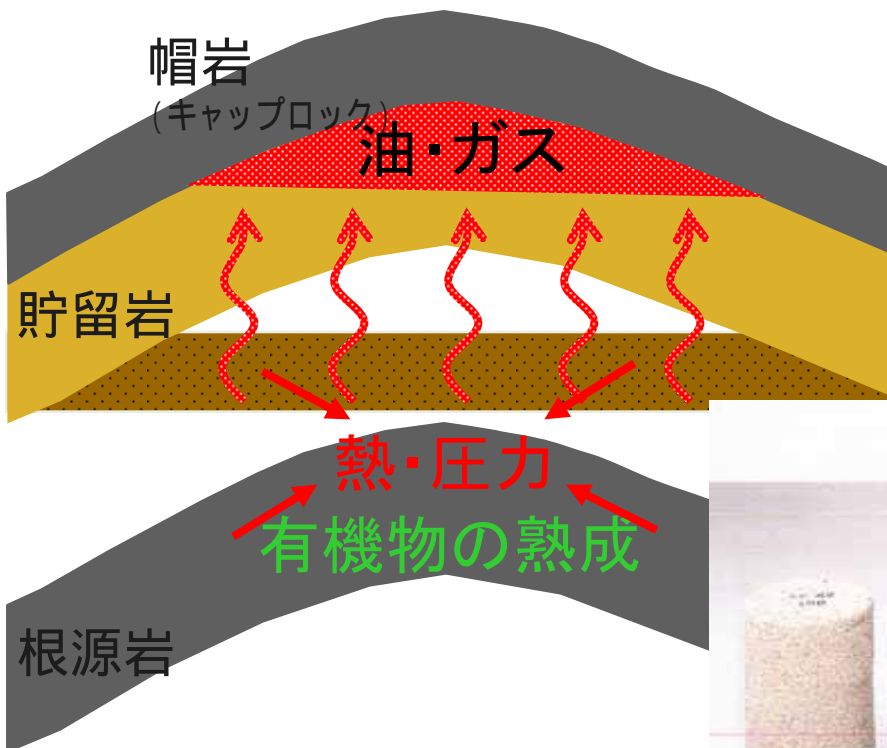


- 経営統合以降、原油・天然ガス生産・販売量は概ね順調に増加。
(原油・ガス価格の上昇や円安が業績に好影響)

* 05年度の金額は、国際石油開発(連結)および帝国石油(連結)の単純合算

事業内容と経営戦略

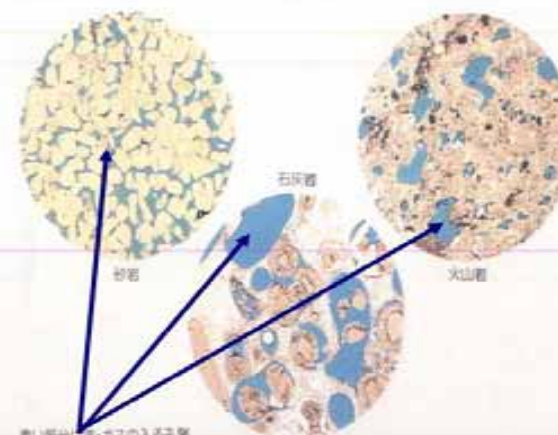
原油・天然ガスとは？



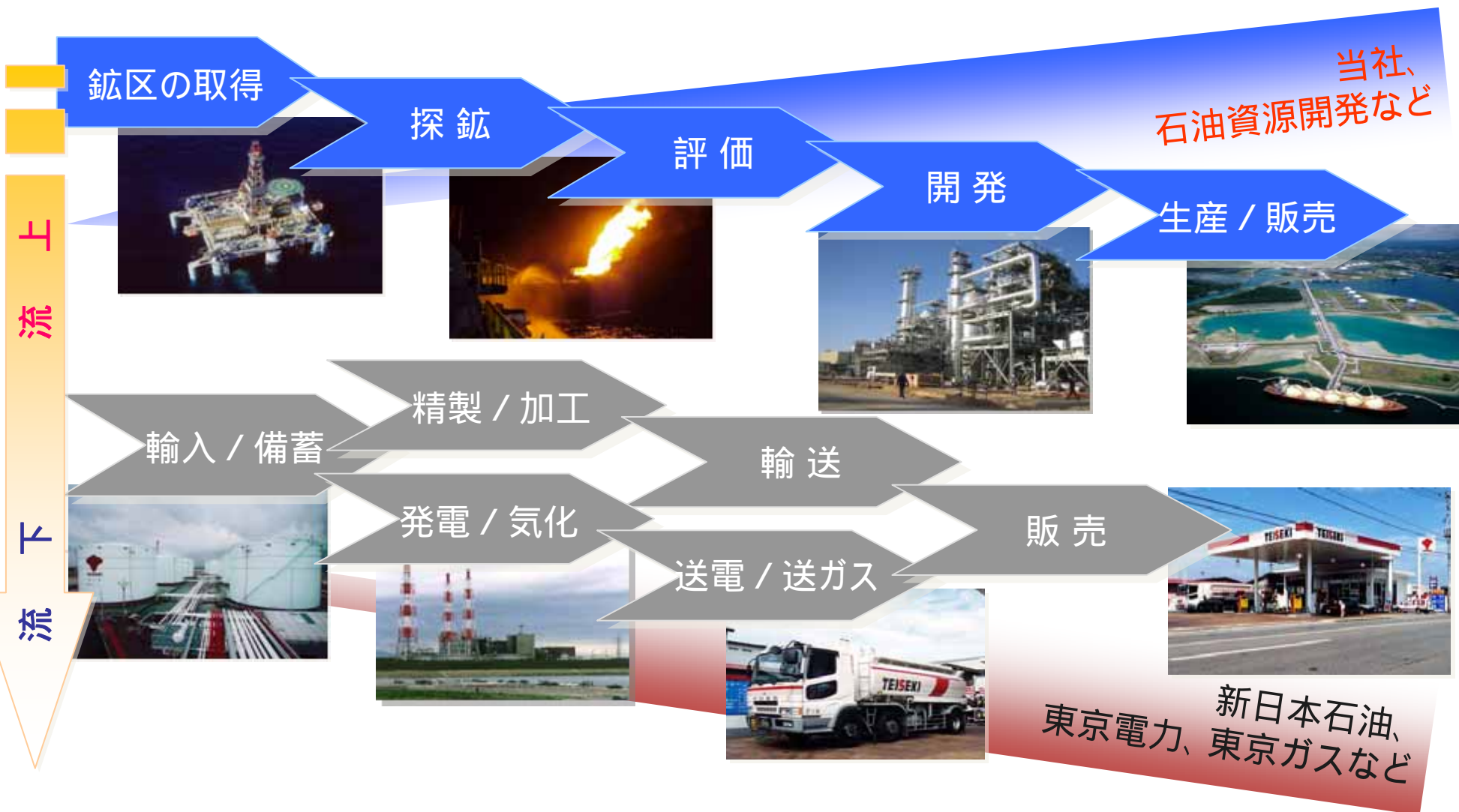
原油・コンデンセートサンプル



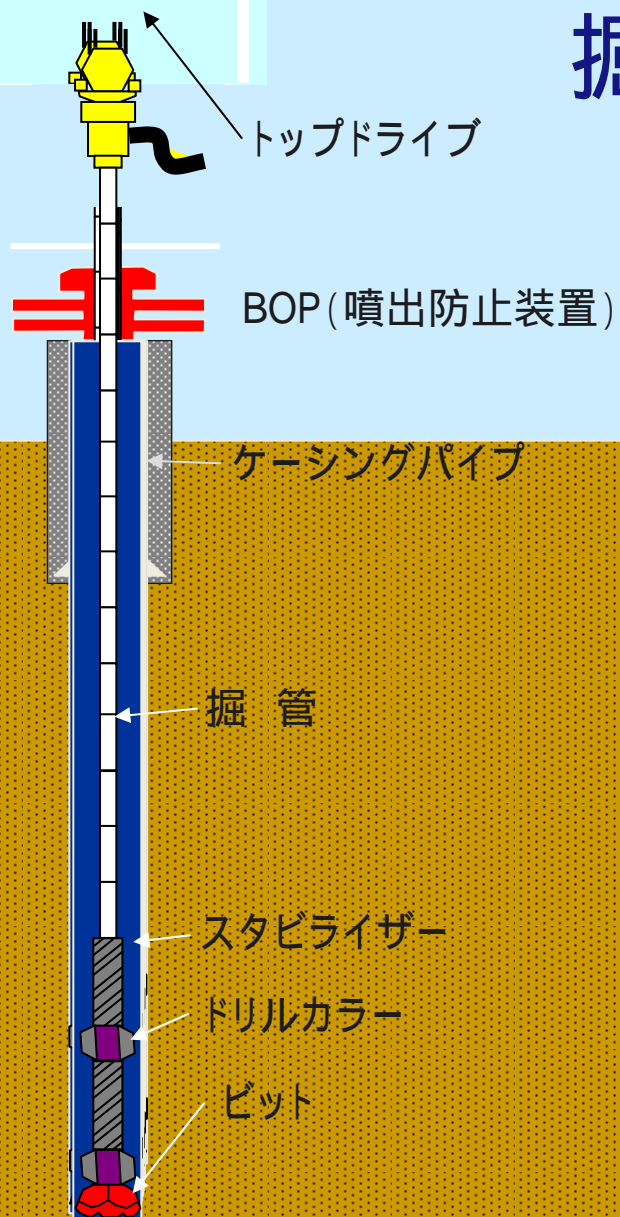
地層コアサンプル



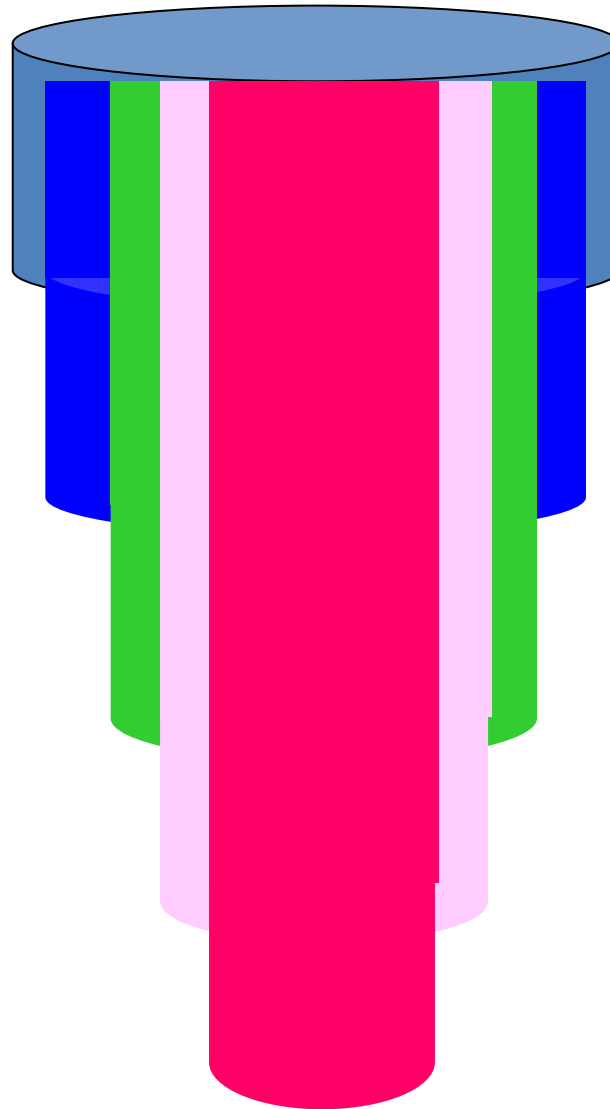
石油・天然ガスの上流（アップストリーム）事業



掘削作業



井戸は深くなるにつれて直径を小さくする **INPEX**



30 inch (76cm)

@ 100m

20 inch (51cm)

@ 1,000m

13 - 3 / 8 inch (34cm)

@ 3,000m

9 - 5 / 8 inch (24cm)

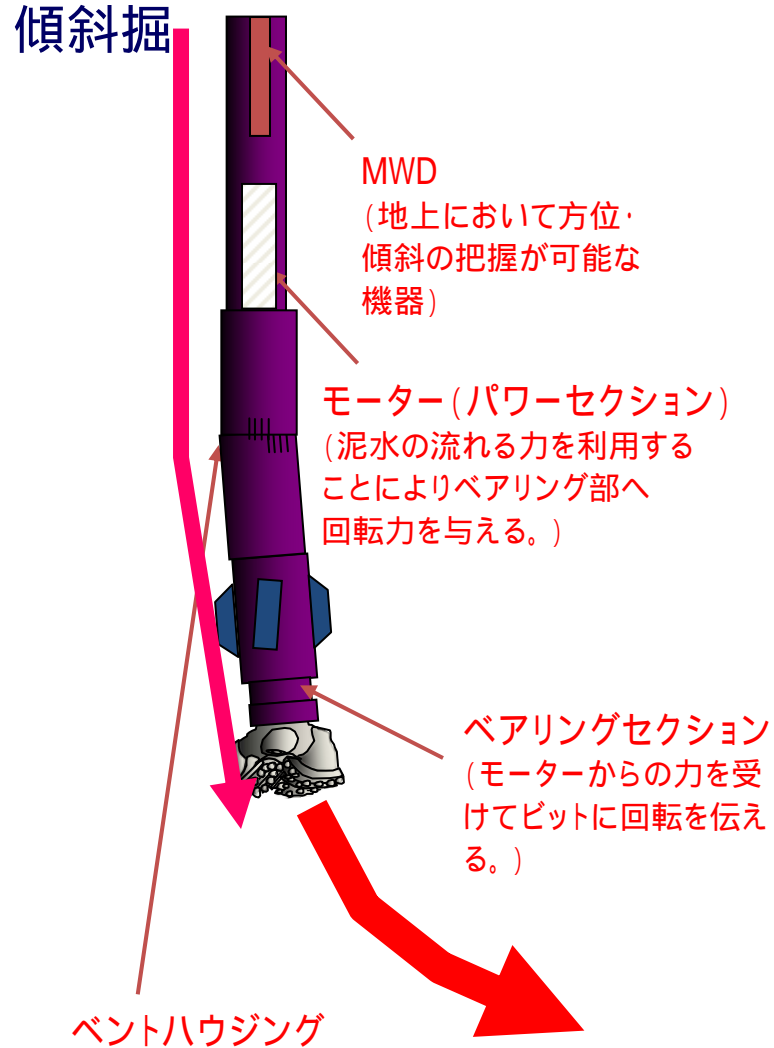
@ 4,000m

7 & 5.5 inch (18cm)

@ 5,000m

傾斜掘・水平掘

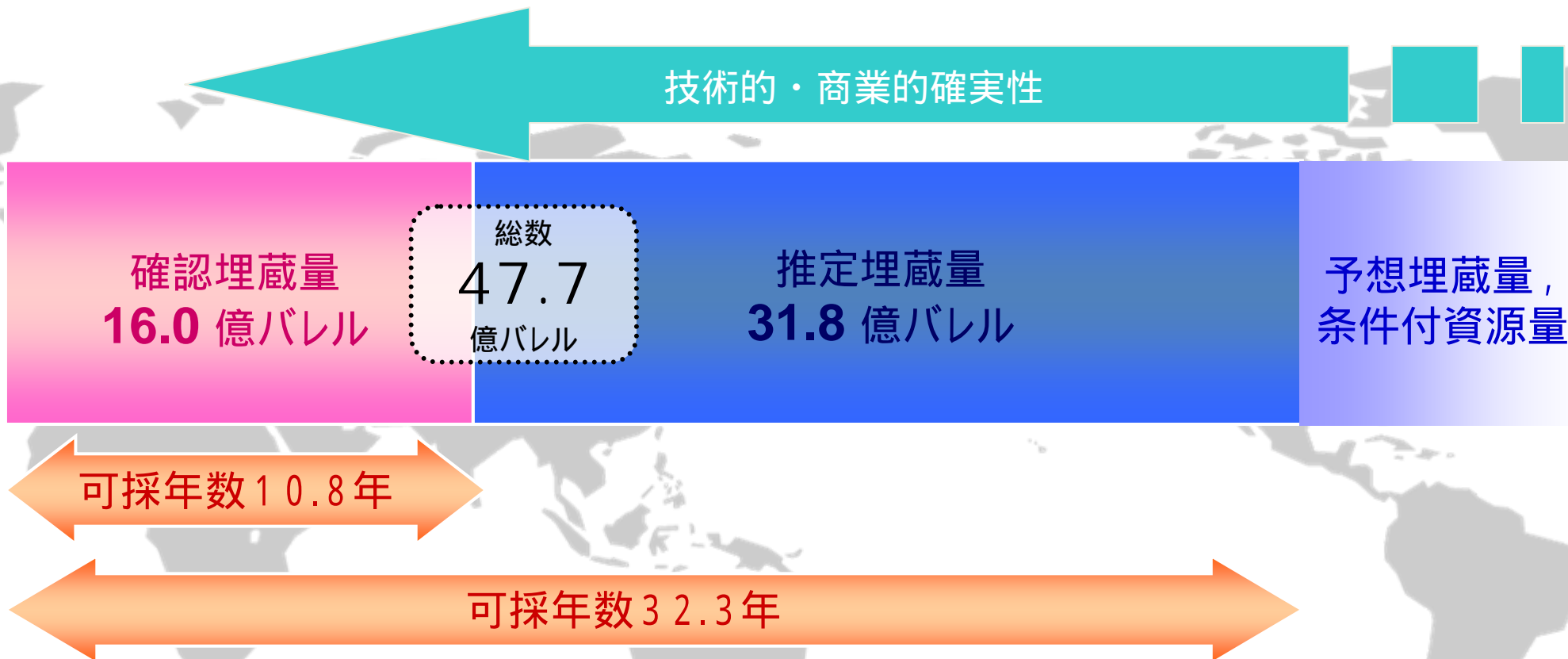
傾斜掘



水平掘



当社グループの原油・天然ガス埋蔵量 (2009年3月末時点)

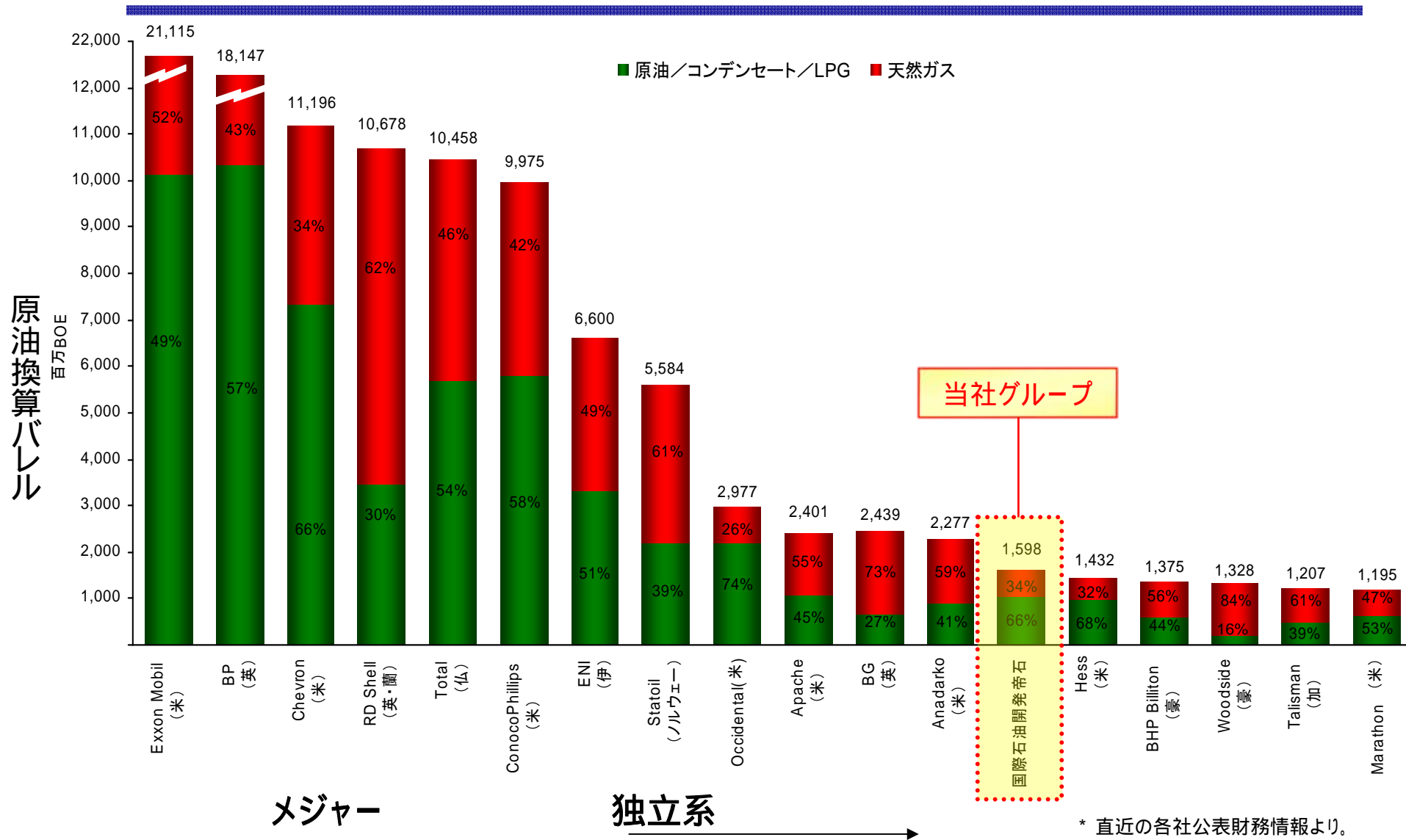


確認埋蔵量: 地質的・工学的データに基づき、現在の経済条件および操業条件の下で、将来にわたり合理的确实性をもって回収可能である原油・天然ガスの数量 (米国証券取引委員会 (SEC) の基準に準拠)

推定埋蔵量: 石油技術者協会 (SPE) が世界石油会議 (WPC) ・米国石油地質技術者協会 (AAPG) ・石油評価技術者協会 (SPEE) の支援の下に策定した基準 (2007PRMS) に従い、地質的・工学的データに基づき、確認埋蔵量に追加して商業的に回収することが可能と推定される原油・天然ガスの数量

上記SEC基準は2010年1月1日より見直され、非在来型資源の確認埋蔵量への算入や、開示範囲の拡大等が図られたが、当社の埋蔵量数値に大きな影響はないものと見込まれる。

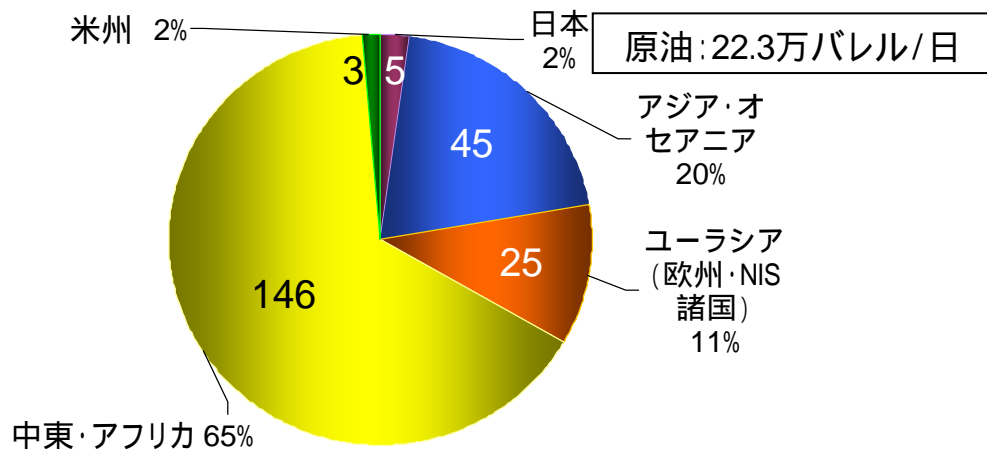
主要な石油・ガス会社との確認埋蔵量の比較



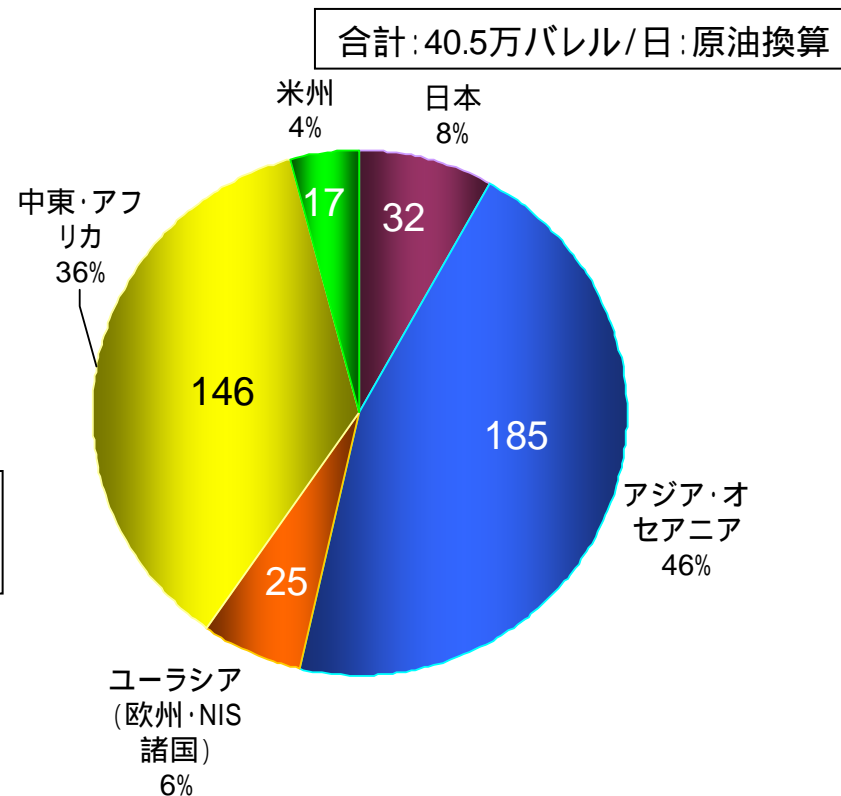
* 直近の各社公表財務情報より。
* 国営石油会社は除外している。

当社グループの生産量* (2008年4月 - 2009年3月)

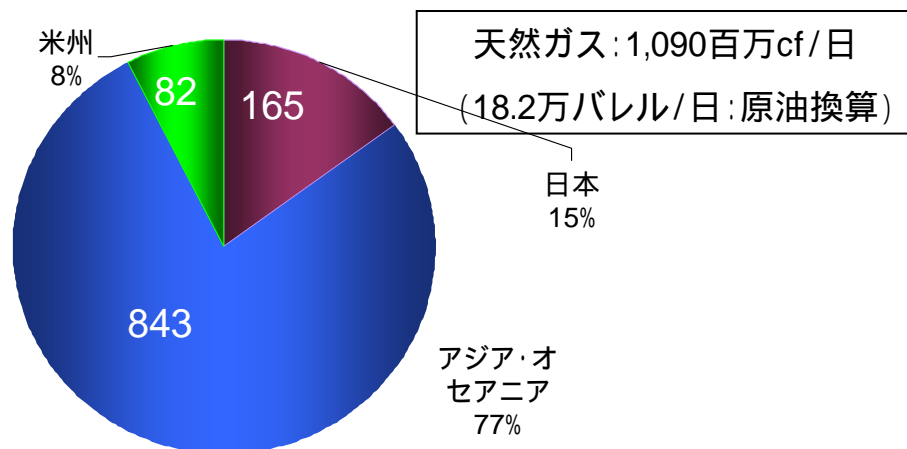
原油



原油・天然ガス合計

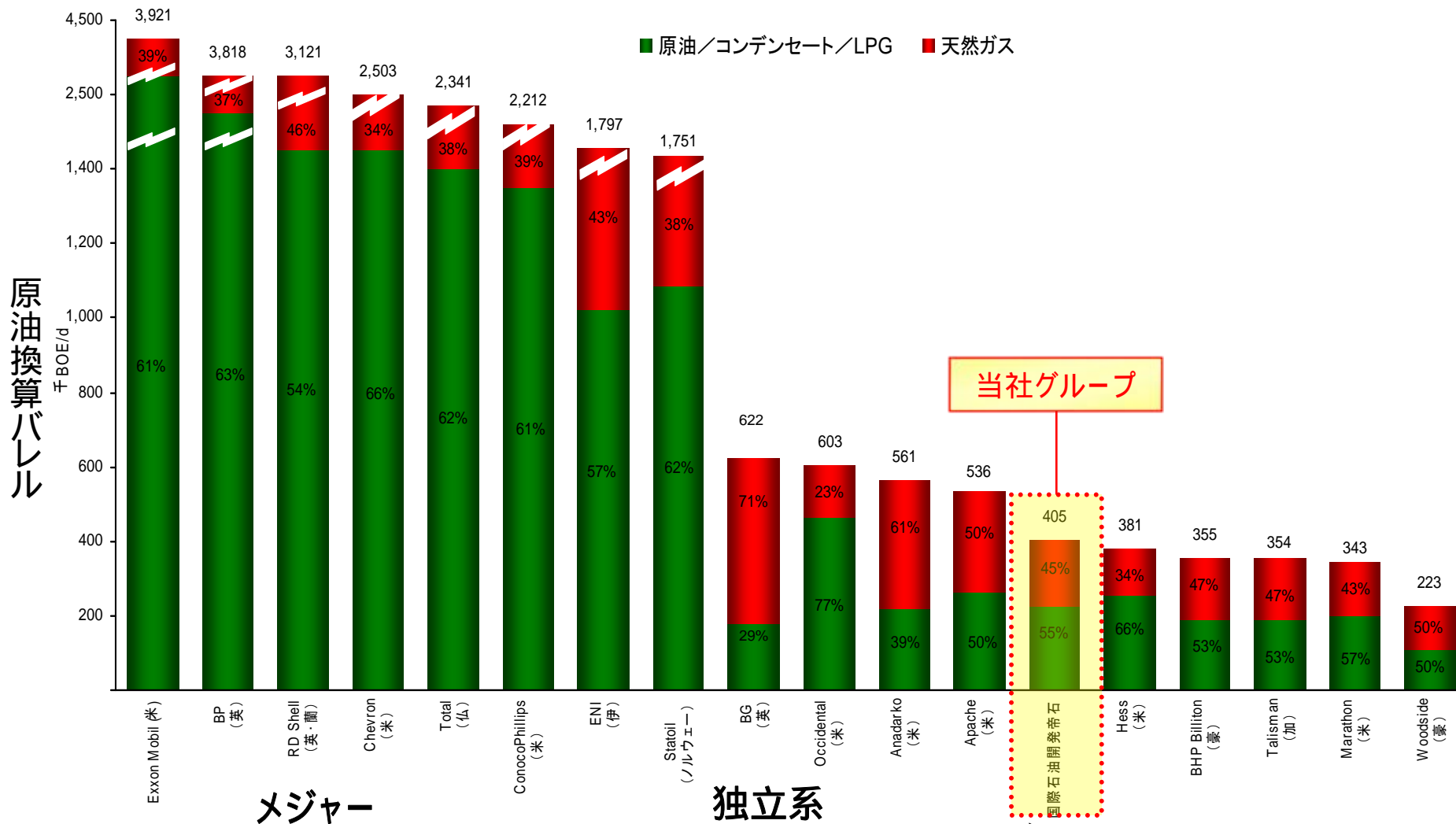


天然ガス



* 生産量は、各プロジェクトの石油契約に基づく当社取り分(正味経済的取分)に相当する数値を示しています。

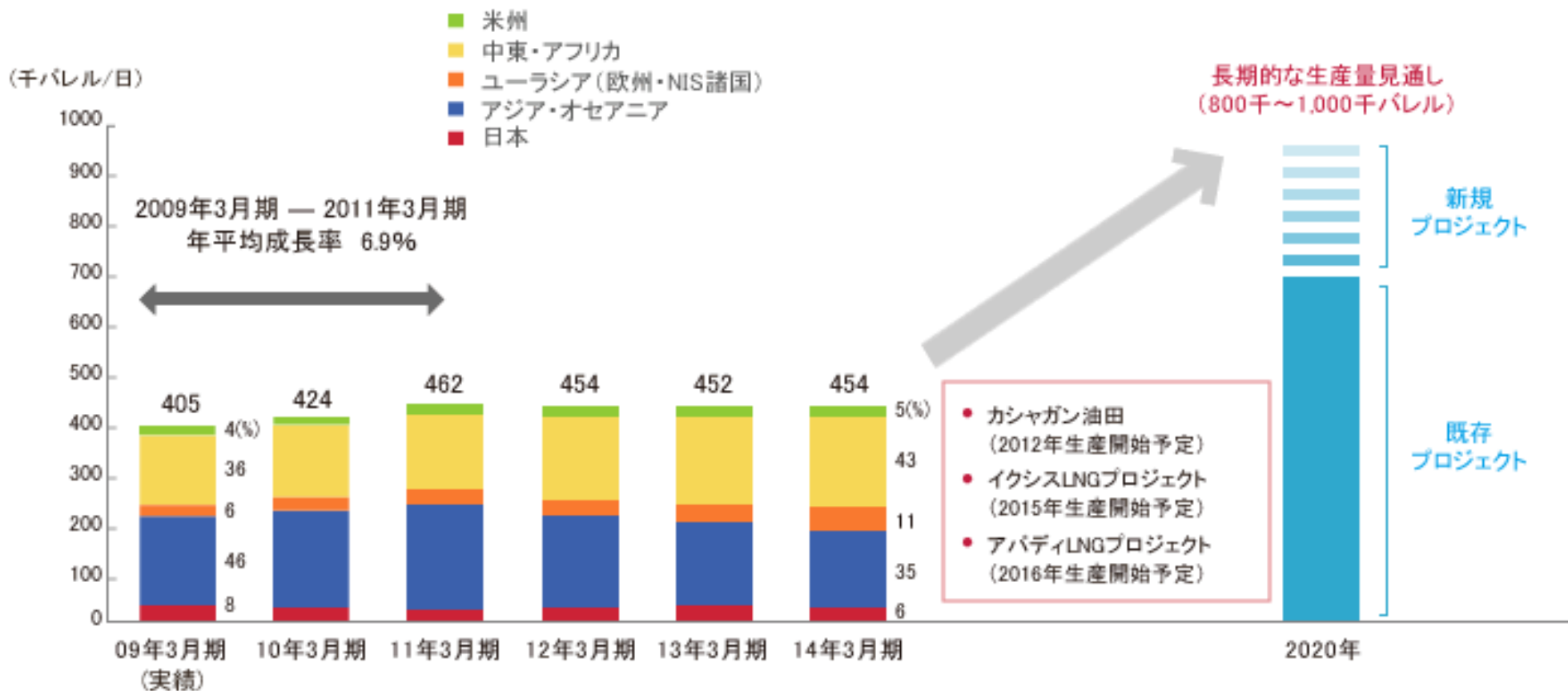
主要な石油・ガス会社との生産量の比較



* 直近の各社公表財務情報より。
 * 国営石油会社は除外している。

今後の成長戦略

生産量予測—地域別 ※原油換算



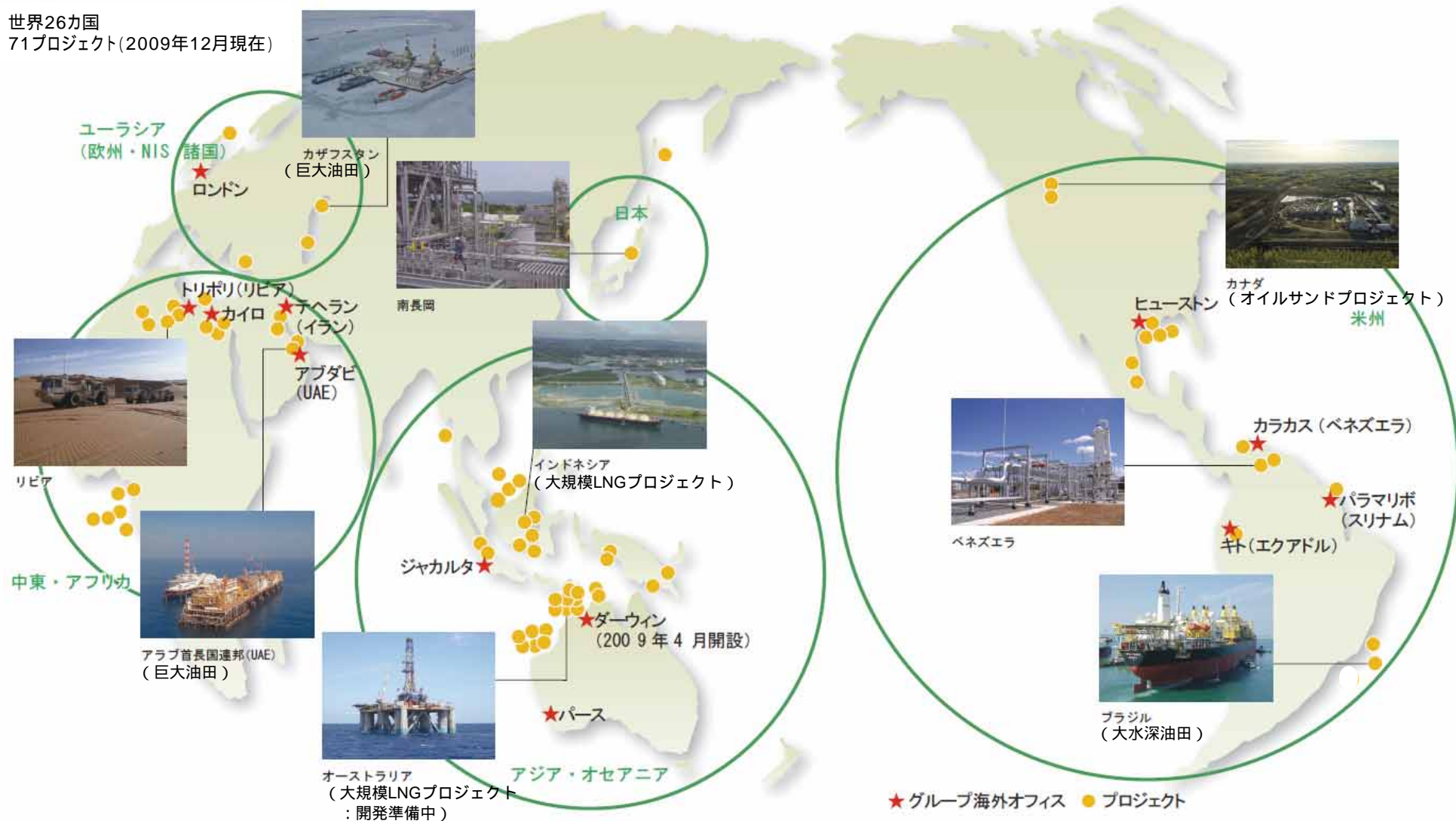
原油価格は2010年3月期は52.5ドル、以降60ドルフラットを前提に、石油契約に基づく取り分としての生産量を試算。
生産量・埋蔵量の単位は、天然ガスを原油換算して加算したバレル

主要プロジェクトのご紹介

バランスの取れたポートフォリオ

INPEX のグローバルな事業展開

世界26カ国
71プロジェクト(2009年12月現在)



マハカム沖鉱区 インドネシア東カリマンタン沖合



権益比率	: 50.0%
	(オペレーター: 仏TOTAL)
生産量*	
天然ガス	: 日量約25億立方フィート
原油	: 日量約7万7千バレル
生産分与契約	: 2017年まで

- 当社最大のプロフィットセンター
- 利益の5割以上を占める
- 世界最大級のボンタンLNGプラントへの最大のガス供給者(当社は約4割のガスを供給)

マハカム沖鉱区

* 同鉱区全体、2009年3月平均日産量

イクシスLNGプロジェクト 西オーストラリア沖合



権益比率 : 76%
 オペレーター : 当社
 利権契約 : リテンションリース (開発検討鉦区)
 2014年9月まで
 生産ライセンス期間
 付与から21年(延長可)

WA - 37 - R鉦区 ●

- 日本企業が初めてガス田の探鉦開発からLNGの生産・販売までをオペレーター(操業主体)として取り組む画期的なプロジェクト
- 現在、年間約840万トンのLNG生産(現在の日本のLNG輸入の1割強)を計画
- 生産開始目標:2015年末

アバディLNGプロジェクト インドネシア領アラフラ海



権益比率	: 90%
オペレーター	: 当社
生産分与契約	: 開発・生産期間 2028年まで (契約延長交渉可)

マセラ鉱区

- 同海域における初の天然ガス発見
- 年間450万トン規模のLNGプロジェクト
- 世界でまだ例のない大規模洋上液化設備(フローティングLNG)による開発に挑戦
- 生産開始目標:2016年

国内天然ガス事業 南長岡ガス田ほか



生産量*

天然ガス : 日量約4.4百万m³

原油 : 日量約5,000バレル

- 日本最大級の南長岡ガス田は1984年から生産開始
- 生産されたガスは関東甲信越地方に広がる総延長約1,400kmのパイプラインネットワークを通じて販売
- 環境負荷の低いガスへの燃料転換が加速、近年急速に需要が拡大
- 2010年から静岡よりLNG気化ガスを導入
- 2014年の運用開始を目標に新潟県上越市(直江津港)にLNG受入基地建設中

ガスサプライチェーンの構築へ

ガスサプライチェーンの構築

開発・生産



海外で発見した油・ガス田の早期商業化
積極的な海外探鉱・開発活動の推進

液化



大規模LNGプロジェクト
(イクシス、アバディ)の着実な推進

輸送・気化



国内天然ガス事業の拡大につながる新たな
ガス調達、自社LNG受入基地の建設

ガス供給



国産天然ガスと海外LNGの最適活用
国内パイプラインネットワークとの有機的結合

大規模油田開発プロジェクトに参加

ADMA鋳区 (UAEアブダビ沖)



- 当社グループ企業が開発を推進してきた上部ザクム油田は世界屈指の油田
- 当社グループの原油生産量の約5割を占める

ACG油田 (アゼルバイジャン)



- 2010年代末にかけて、油田全体で日量約100万バレル規模の生産量に
- 生産された原油は総延長1,770kmのパイプラインを通じてカスピ海から地中海へ出荷

カシャガン油田 (カザフスタン)



- 今後の成長ドライバー
- 過去30年で最大の発見といわれる巨大油田であり、カザフスタン領カスピ海における最初の発見
- 2012年生産開始、2010年代末にかけてピーク生産量は油田全体で日量150万バレルに

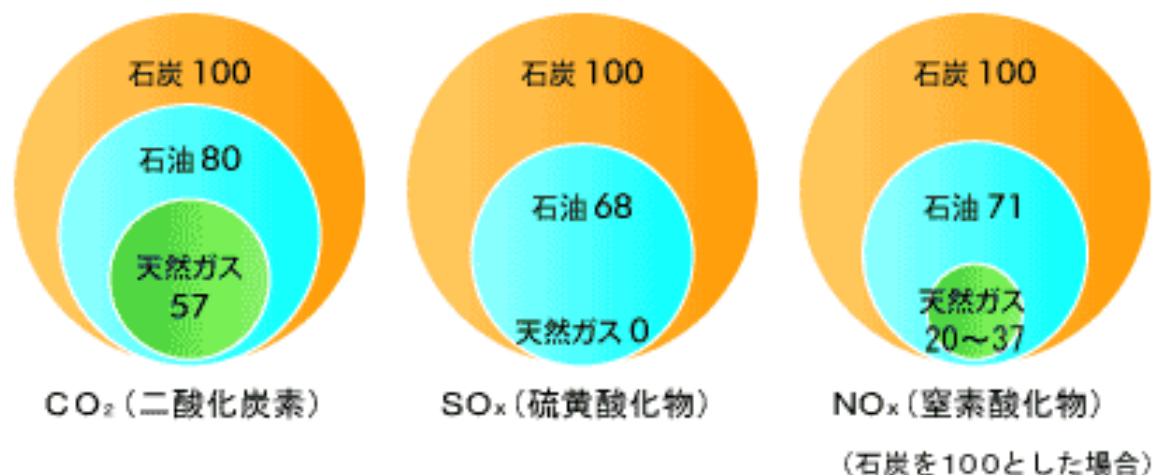
環境・CSR、新エネルギー等への取り組み

環境負荷低減、地球温暖化対策

クリーンエネルギー 天然ガス

- CO₂排出量：石油の約70%、石炭の約60%
- 世界的な経済発展、排出量削減政策による長期的な需要増加
- 当社：CO₂排出原単位（生産量単位当たりの排出量）削減への取り組み
- 併せて、廃棄物の削減や土壌汚染の防止対策

■化石エネルギーを燃焼した時に発生するCO₂、SO_x、NO_xの比較



資料:CO₂は「火力発電所大気影響評価技術実証調査報告書」(1990年3月)/
 (財エネルギー総合工学研究所) SO_x、NO_xは「天然ガスー2010年の展望ー」
 (1987年3月)/OECD・IEA



天然ガス自動車

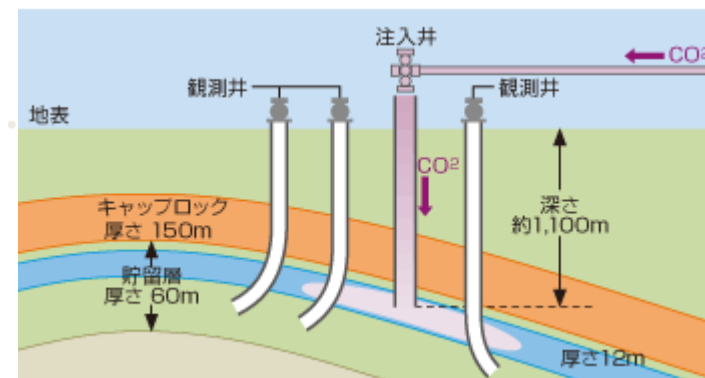


家庭用燃料電池

環境負荷低減、地球温暖化対策

CO₂の地中貯留(CCS)への取り組み

- CO₂を分離回収し、地下深部の帯水層に圧入固定化する「CO₂地中貯留(CCS)」
- 当社:(財)地球環境産業技術研究機構(RITE)のCO₂地中貯留実証試験に参画、南長岡ガス田(新潟県長岡市)を試験地として作業に協力
- 2008年5月には、他社と共同で日本CCS調査(株)を設立、大規模な実証試験を行うべく準備中
- 2009年2月には、豪州政府主導のGlobal CCS Initiativesに加盟

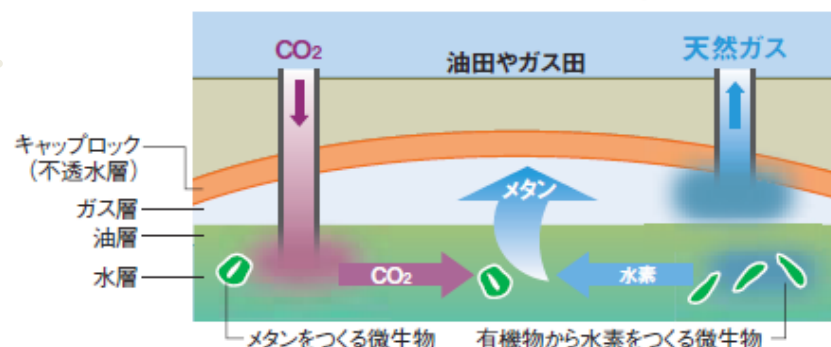


CCSの模式断面図

CO₂からメタンを生成する技術の研究

- CO₂の地中貯留と、バイオ技術を用いた二酸化炭素のメタン変換とを組み合わせ、二酸化炭素をエネルギー源として再利用する持続型炭素循環システム
- 産学協同研究として、東京大学大学院工学系研究科に社会連携講座「持続型炭素循環システム工学」を開設

油田で微生物を利用してCO₂から天然ガスを生成する仕組み



多様なエネルギーを供給する企業への成長

次世代燃料の開発

- 環境負荷の低い次世代エネルギーの開発
- GTL: ガストゥリキッド・・・ガス等からガソリン、灯油等を化学的に合成
- DME: ジメチルエーテル・・・ガス等から合成される気体、LPGに近い性状



新潟GTL実証プラント
(日本GTL技術研究組合 提供)

新規分野への挑戦

- エリーパワー(株)へ出資
・・・大容量リチウムイオン電池の量産化を目指すベンチャー企業へ出資。“蓄エネ”技術や事業ノウハウの獲得、産油・産ガス国協力などの当社事業との連携や新たな事業展開の可能性を追求
- DBマスタードール クリーンテック ファンドへの出資
・・・クリーンテクノロジーや再生可能エネルギー企業の未公開株式へ投資するアブダビのファンドへ出資。
産油国協力とともに新規ビジネス機会のさらなる追求



大型リチウムイオン電池
(エリーパワー(株) ホームページより)

地域社会への貢献

事業地域の文化・習慣の尊重、発展への貢献

- アゼルバイジャン、カザフスタンなどにおける経済成長、社会経済的開発支援、EITI(採取産業透明性イニシアチブ)への参加
- 水井戸の提供や、地域の文化活動、健康増進等への協力
- 操業面の安全確保、災害復旧支援
- 文化交流の促進



生物多様性の保全

- インドネシア、UAEにおける植林活動
- マハカムデルタ(インドネシア)環境保護プログラムに参加
- イクシスプロジェクトでは、豪州石油探鉱開発協会から環境賞を受賞



教育支援

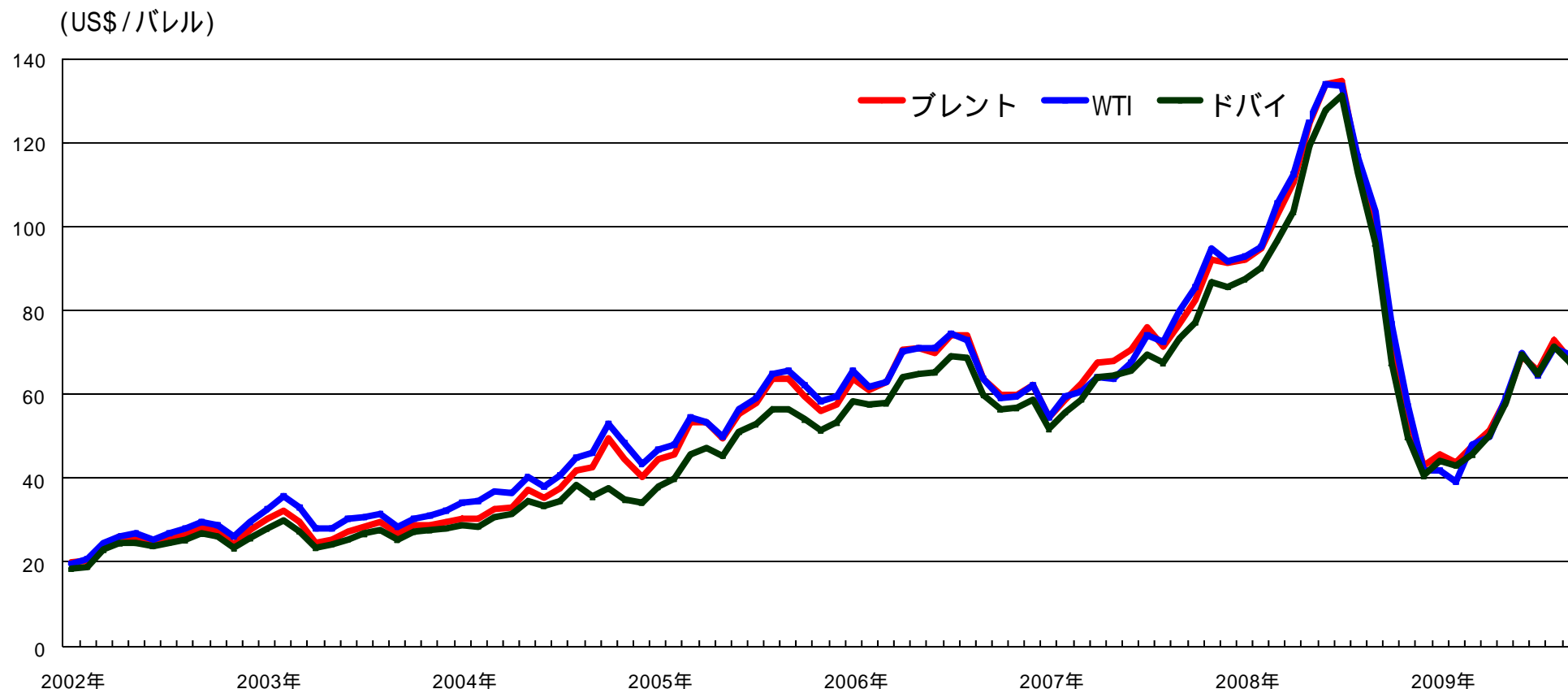
- インドネシア留学生支援
- UAE大学生の日本研修
- ベネズエラにおける地域教育プログラムへの協力



業績の見通し

原油価格の推移

(月間平均)



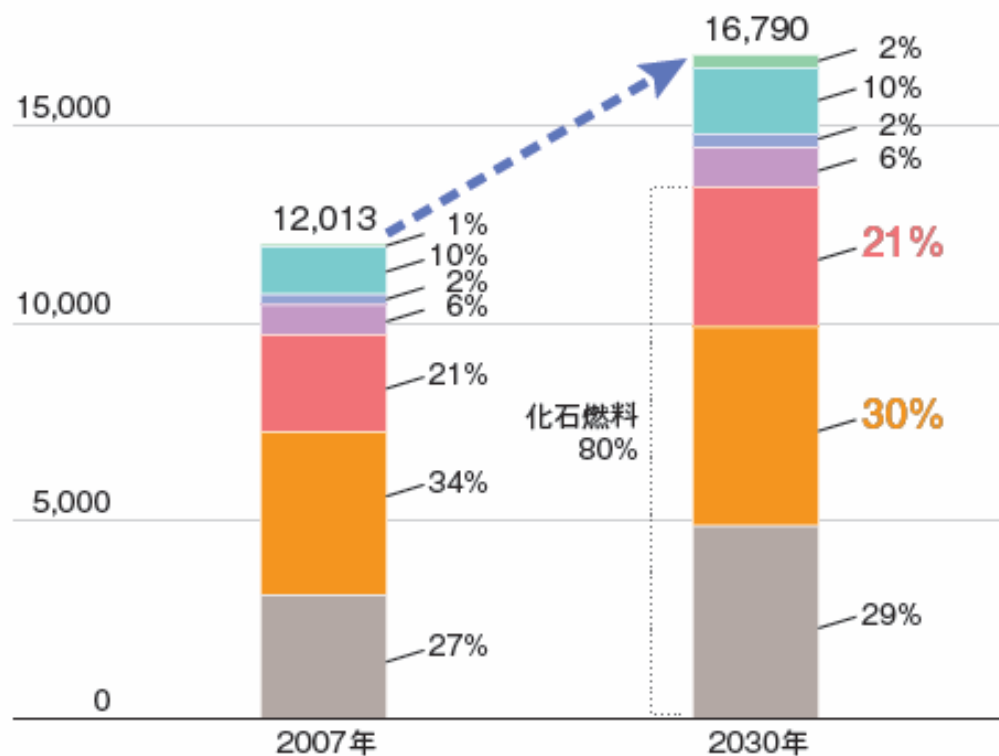
- 08年、油価は最高値でWTI 147ドルまでに急騰し、その後急落、現在再び上昇傾向
- 価格変動(ボラティリティ)が激しく、短期的な油価を見通すことは困難
- しかし、足許の変動に目を奪われることなく、中長期展望の下、効率性に一層配慮しつつ持続的な投資が必要

世界のエネルギー需要見通し

世界のエネルギー需要見通し

(石油換算百万トン)
20,000

再生可能エネルギー バイオマス・廃棄物
水力 原子力 天然ガス 石油 石炭



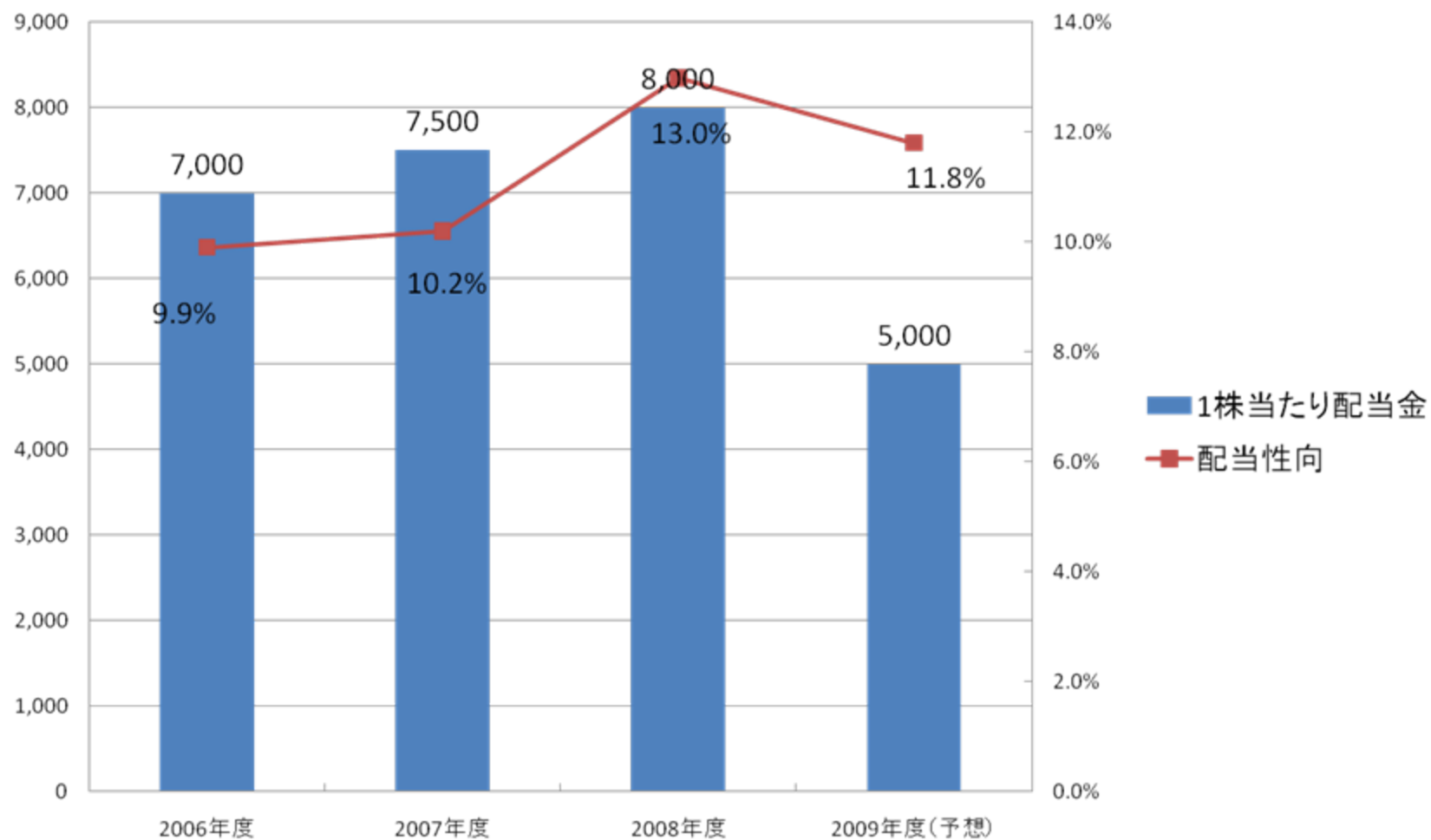
出所：IEA（国際エネルギー機関）World Energy Outlook 2009

2009年度 業績予想

	08年度	09年度(予想)
ブレント 油価 (\$/bbl)	85.7	通期平均 68.6 (上期実績64.4、第3四半期実績75.6、第4四半期前提70.0)
為替レート (円/US\$)	100.5	通期平均 92.7 (上期実績95.5、第3四半期実績89.7、第4四半期前提90.0)
売上高 (億円)	10,761	8,230
当期純利益 (億円)	1,450	1,000
1株当たり年間配当金 (円)	8,000 (うち中間配当4,000)	5,000 (うち中間配当2,500)
1株当たり当期純利益 (円)	61,601.60	42,490.02
配当性向 (%)	13.0	11.8
株価収益率(PER) (倍) *	11.1	15.5

* 08年度は期末株価(68.3万円)、09年度は2010年1月末日付終値(66.0万円)を使用

配当金の推移（当社）





Energy for
a Bright Future
明るい未来を拓くエネルギー

私たちは、日本を代表する多様なエネルギーを供給する
企業として、世界各地で70を超える石油・天然ガスの
探鉱・開発プロジェクトに従事しています。

これからも積極的な国際展開により
石油・天然ガスの安定的な供給にたゆまぬ努力を続け
次世代に向けて豊かな明日を拓くために一層の貢献を図ってまいります。

国際石油開発帝石株式会社

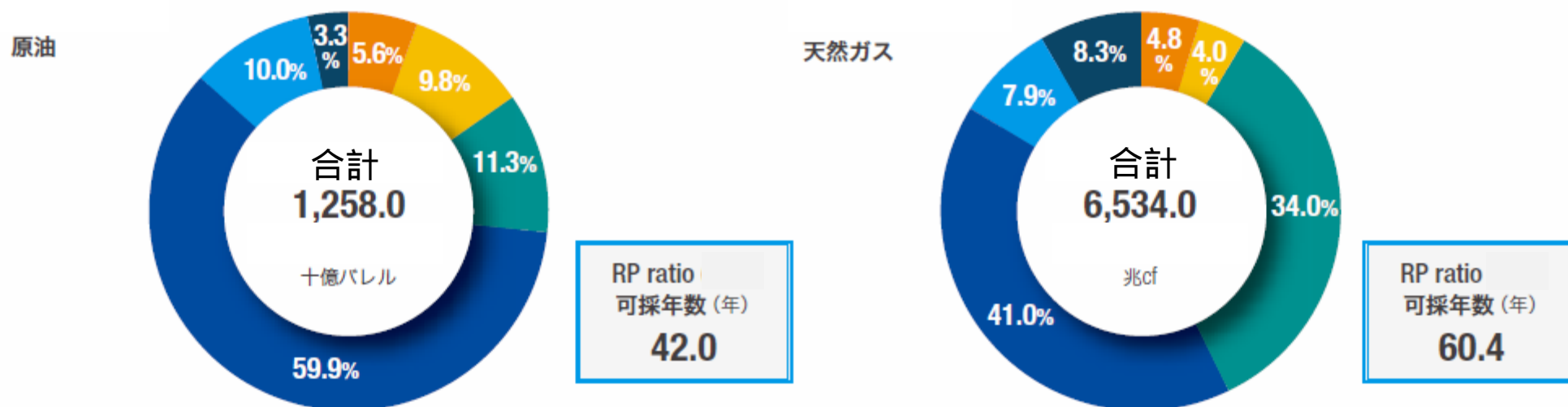
〒107-6332 東京都港区赤坂5-2-1 赤坂Bizタワー
Tel: 03-5672-0200 Fax: 03-5672-0205 URL: <http://www.inpex.co.jp/>

INPEX 検索

參考資料

世界の原油・天然ガス確認埋蔵量

地域別確認埋蔵量*と可採年数(2008年末時点)

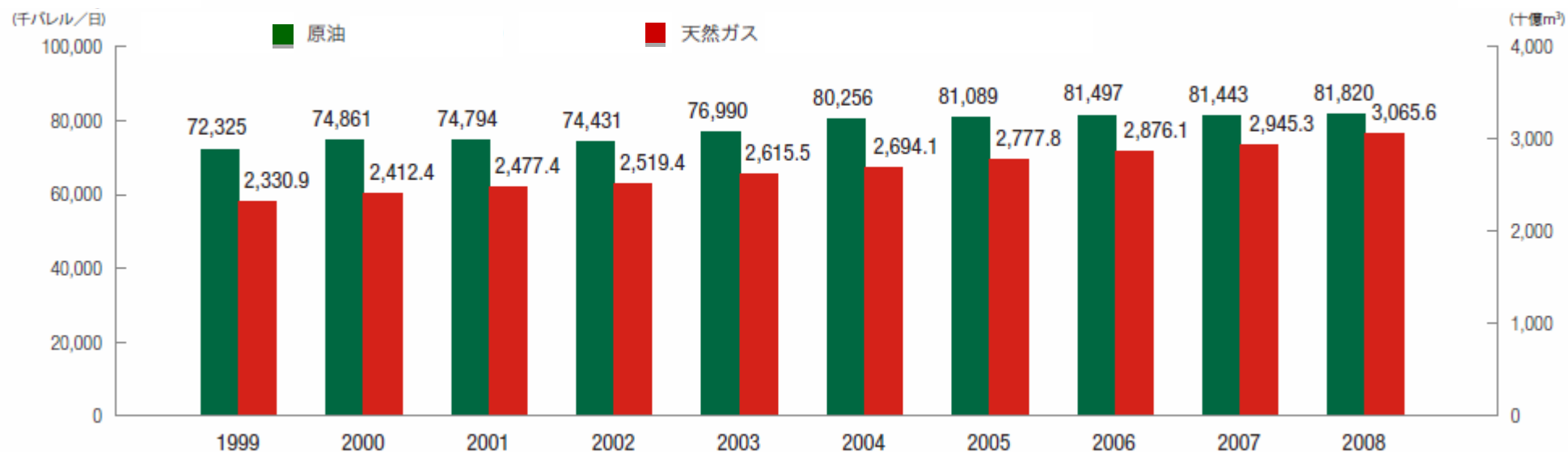


* 主要な公式情報及び第3者データを使用し、まとめたデータ。

	原油 (十億バレル)	天然ガス (兆cf)
北米	70.9	313.1
中南米	123.2	258.2
欧州・ユーラシア	142.2	2,220.8
中東	754.1	2,680.9
アフリカ	125.6	517.5
アジア・太平洋	42.0	543.5
合計	1,258.0	6,534.0

世界の原油・天然ガス生産量

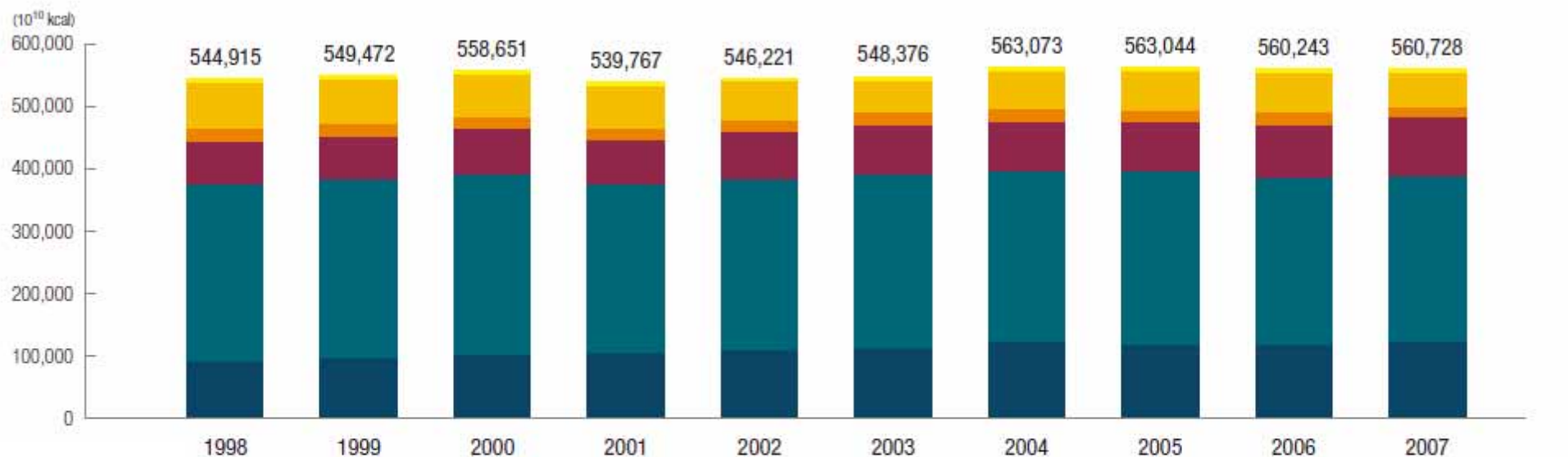
世界の原油・天然ガス生産量の推移



出典: BP 「BP Statistical Review of World Energy 2009」

日本の一次エネルギー供給実績

一次エネルギー供給実績 (国内)



	(10 ¹⁰ kcal)										
	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	
新エネルギー他	7,142	7,257	7,333	7,015	7,260	7,483	7,301	7,317	7,338	7,311	
原子力	74,777	71,239	69,241	68,770	63,445	51,603	60,725	64,139	63,859	55,526	
水力	21,447	19,870	19,253	18,674	18,367	21,248	20,964	17,031	19,426	16,522	
ガス	66,995	69,749	73,398	72,002	74,321	78,964	78,427	78,806	86,119	92,968	
石油	285,277	286,036	289,204	271,216	275,742	278,203	275,154	281,136	268,312	268,136	
石炭	89,278	95,322	100,222	102,090	107,086	110,875	120,502	114,615	115,189	120,265	
合計	544,915	549,472	558,651	539,767	546,221	548,376	563,073	563,044	560,243	560,728	